

カマメ通信 VOL 4

発行:カマン!メディアセンター 〒557-0002 大阪府大阪市西成区太子1-11-6
tel/fax 06-6643-3133
URL <http://www.kama-media.org/>
open12:00~20:00



ふねはどこへ向かうのか
ひろい海を どこまでも
気の向くままに
あてもなく
いつかあなたに会えたら
お元気ですか と 聞けるかな



OCA!大阪コミュニティアート事業

シンポジウム ~アートの力を信じる~

2009年1月23日(土) 10:30~19:00

ゲスト:谷川俊太郎・オザワケンジ(スカイにて通信)

マットピーコック(ストリートワイズオペラ)

入場料:一日通し券 1800円 1部+2部 1500円

2部+3部 1500円

要予約:申込 06-6643-3133 カマン!メディアセンター

坊主inレジデンス (BIR) お坊さん大募集中!

カマン!メディアセンター奥の4畳半で生活しながら、作品制作やワークショップ、お説教したり(されたり!?) などなどをしてみませんか?家賃は格安!応相談です

ご連絡はカマン!メディアセンターまで *ココロームは他分野との協働を目指しています*



今月のカマンTV

- ありがとう森繁久彌 特集
- コントラダンス!
- 釜ヶ崎古写真

カマンTV!では流したい映像を募集しています
こんなのがしてほしい!というリクエストもどうぞ

特集

コミュニティアート 映像祭

メディアがつなぐ出会いとおもい

2009.11.3

これはきっと、表現しきれない私たちを映したのでしょうか

特定非営利活動法人 コミュニティアート・ふなばし
山浦彬仁

千葉から DVD の束を抱えて、11月3日コミュニティアート映像祭をカマン！メディアセンターで開催させて頂いた。映像祭ではお客様に映像の注文をして頂きながら、上映をする。プログラムはお客様と一緒に作るのが、この映像祭の特徴だ。開始直後に注文が入ったのは大木裕之監督の「光の庭の子どもたち」。障害を持つ子どもとコミュニティアート・ふなばしの10年に渡るプロジェクトの作品だが、強烈な内容ゆえにお客様の反応はどこで上映しても賛否両論。感想はなかなか言えず「良いけど、ぐう…」となる事がしばしば。西成会場での上映も案の定「ぐう…」その中で、映像祭の設営を手伝ってくださったセキさんが「これは私たちだ」と感想をおっしゃった。そこから話がはじまった。ジェンダーに関する作品『♀？♂？※？』を制作したnodeのレンさんホンダさんも会場にいらして話を下さった。「私たちが生きる上で情報は不可欠だが、情報によって生きることが制限される事もあるね。」そんな話が続く中、ノボルさん、原田さんにガイドして頂いて釜ヶ崎のまちを歩いた。ノボルさんから釜ヶ崎のリアルを伝えてもらう。初めて釜ヶ崎に来たというお客様は言葉を失う。あいりん労働福祉センターの2階掲示板には、無数の名前と地名が刻まれている。千葉のニュータウンに暮らす私は釜ヶ崎に行かなければ知ることのない現実。情報。リアル…。まち歩きを終えてノボルさんが持ってきたビデオ「越冬85」を皆で見る。お礼参り、越冬カラオケ大会。西成のかつての記憶を映像で紐解きながら、ノボルさんやセキさんが解説して下さる。通りを歩いていた方が「懐かしいね」なんて言って足を止める。映像を見ながら皆で話す事で、遠い昔の他人事が、今の私達の隣までやってくる。

今回の映像祭を開催を通じて、私がいかに日ごろ近い人としが話をしていないことに改めて気付かされる。ココルームの上田假奈代さんに「関係性に貧困」というキーワードを頂いた。関係性の貧困。それはまさに西成釜ヶ崎という高度経済成長の産物として生まれた地区だけでなく都市部であれ農村部であれ、どんなところでも起きている私たち一人一人の貧困だ。

「おしゃべりが生まれる環境をメディアと呼びたい」というカマン！メディアセンターのコンセプト。映像祭をさせて頂いて実感したのが、誰かと共に自分について話すことができ、共にそれぞれの未来を話せる「おしゃべり空間装置」がコミュニティアートの作品であり、装置であるということだ。映像祭の中で「安心してしゃべれる場と久しぶりに出会えた」とお客様からのコメントを頂いた。話すことで誰かとつながる、学びの共同体、コミュニティアート。センターの看板のマスコットのカメラさん同様、時間がかかるかもしれないが、カマン！メディアセンターが、コミュニティアート映像祭が提示するメディアが現代への処方箋であることは間違いない。



地域のおまつり、「西成市民館のおまつり」のポスターをみんなでつくりました
わいわいどンドン人があつまってきて、すてきなポスターができました

イベントスケジュール

カマン!メディアセンター
KAMAN!mediacenter

カ

ココルーム
COCOROOM

コ

11月

november

12月

disember

11月23日(月・祝) 19:30～ 投げ銭



「大阪チャンポン」西成篇

落語紙芝居のガンチャンと唄とギターのアキラさんによるステージ!

11月23日(月・祝) 13:00～夕方(雨天時中止)

ココルームおでかけ企画

秋の大ピクニック&大コントラダンス大会

他

場所:扇町公園丘の上

11月25日(水) 19:00～20:00

パソコン日記 de タイピング練習!

カ



タイピングを中心にみんなでたのしくパソコンを覚えませんか
in カマン!メディアセンター 料金 ¥800 ※要申込料金

11月28日(土) 18:00～

OCA!大阪コミュニティーアート事業 勉強会



「<住み開き>自分の場(プライベート)を集いの場(パブリック)に変える幾十の方法」

カ

講師:大和川レコード(a.k.a.アサダワタル) 定員:15名 参加料300円

11月28日(土) 19:30～ 投げ銭カンパ

コ

ウラン・ジクス 新世界朗読劇場

みなさんもごいっしょに朗読してみましょ

11月29日(日) 16:00～

カ

みんなの道のポスターをつくろう の日

カマン!メディアセンターのシャッターにいつも立ちションがされ、道にはわんわんの糞が処理されずに落ちています。ごみを道に投げ捨てて行く人もたくさんで困っています。一緒にポスターをつくってくれる方はぜひあそびにきてください

11月30日(月)

山王ミニ夜回り

コ

*あまりに人数がおおすぎると、迷惑になりますので、なるべくお申し込みをおねがいします

*18:00より前の時間からお手伝いいただける方も歓迎です

*毎月一回の夜回りに、お米や梅干し、サララップなどのカンパおねがいします

12月4日(金) 19:00 投げ銭

コ



野々下大 ミニ・ピアノライブ ～ショパンとか弾くよ～

12月9日(水) 14:00～

アートマスクの会 再び!

カ

風邪が流行ってきました また一緒にアートマスクをつくりませんか

12月12日(土) 14:00 カマン!メディアセンター集合

カ

空庭さんちにあそびに行こう!



ビルの屋上で畑をしている空庭さん みんなで見学にいつてみませんか ※自転車でいきますので乗ってきてください

12月15日(火) 19:00～

カ

カマン!TVをみる会

好きな番組、好きな歌、好きな俳優、好きな映画 など…リクエストをもってカマメにあそびにきてみてください

12月18日(金) 19:00～

しまなか こう with 岩田邦彦(パーカッション) 朗読とパーカスの調べ

コ

@ココルーム

12月22日(火) 19:00～

カ

もちこみ映像祭

みなさんから持ち込まれた映像をみんなで見てみましょう

12月23日(水) 19:00～

カ

てれれ大賞 上映会



今回は「食と〇〇」をテーマに集まった作品の特集上映。観た人の投票で【てれれ大賞】も決まります。

12月24日(木) たぶんクリスマス会 ※詳細決まりましたらお知らせします

■すべてのお問い合わせ・お申し込み

カマン!メディアセンター 

大阪市西成区太子1-11-6 tel&fax: 06-6643-3133
info@kama-media.org http://www.kama-media.org

■ココルームでは寄付を受け付けています

三井住友銀行 天王寺駅前支店 普通1585265

郵便振替 記号01090-5-48059

トクテイヒエイリカツドウホウジン コエトコトバココロノヘヤ

cocoroom代表 ウエダカナヨ

映像祭の感想文 2009. 11.15

釜ヶ崎で労働者としてくらしして 38年 のぼる

大阪釜ヶ崎（カマン！メディアセンター）で千葉県から来られた有志の皆さんでの映画の上映がありました。地域で個々の人間の生きざま、心の葛藤、生活に密着してとらえられているのが印象的だった。

社会を表面からだけ見るのではなく、内面に切り込んで人々の考え方や感想がにじみでていた。俺も、人間という生き物は元来自己の内面をかくすのではなく堂々とさらけ出し、人と衝突しながら育み成長していくものだとして認識し、生きている。

この映像祭を通じて、社会に於いて忘れられる存在にいる多くの人たちの心の叫び思いが訴えられていたように感じた。

現代社会での人間関係の希薄さをくつがえすと同時に昔のような人とのつながりや、あったかで思いやりが芽ばえてくるような気持ちになる映像をもっともっと全国に広めてほしい。釜ヶ崎にも、俺を含め社会の中で忘れられた存在の日雇い労働者が一杯います。でも、個々に懸命に生きて、生きぬいています。頑張っ

映像祭の感想文 2009.11.15 015
大阪釜ヶ崎(カマン!メディアセンター)で千葉県から来た有志の皆さんでの映画の上映がありました。地域で個々の人間の生きざま、心の葛藤、生活に密着してとらえられているのが印象的だった。
社会を表面からだけ見るのではなく、内面に切り込んで人々の考え方や感想がにじみでていた。
俺も、人間という生き物は元来自己の内面をかくすのではなく堂々とさらけ出し、人と衝突しながら育み成長していくものだとして認識し、生きている。
この映像祭を通じて、社会に於いて忘れられる存在にいる多くの人たちの心の叫び思いが訴えられていたように感じた。
現代社会での人間関係の希薄さをくつがえすと同時に昔のような人とのつながりや、あったかで思いやりが芽ばえてくるような気持ちになる映像をもっともっと全国に広めてほしい。
釜ヶ崎にも、俺を含め社会の中で忘れられた存在の日雇い労働者が一杯います。でも、個々に懸命に生きて、生きぬいています。頑張っ

釜ヶ崎滞在

特定非営利活動法人 コミュニティアート・ふなばし
中川竜太

映像祭の後、僕は西成に宿泊することにした。自転車の後ろに載せてもらって銭湯へおっちゃんたちと話しながら久しぶりの浴槽に浸かり、一泊1300円のドヤへ。パソコンを開くと無線LANが繋がったので、たまっていた仕事を片付けた。

西成のドヤから、イランの富豪へメールを打つ。ちょっと不思議な感覚。

翌朝、「カマン！メディアセンター」へ行くと、パソコン教室が始まっていた。

僕の得意分野だったので、音楽をMP3プレイヤーから転送する作業を手伝った。お昼の時間、上田さんに「IT得意なんですよ？」と聞かれ、「はい」と答えると、「なんかやってほしい。」と言われた。残り半日という短い滞在時間の中で、何が出来るのか探してみることにした。午後、Nさんと自転車で釜ヶ崎の街に繰り出した。

西成だけでなく、難波や日本橋、新世界などを、とても丁寧に街を案内してくれた。途中、Nさんが労働運動の拠点にしていたという思い出の場所にやってきた。足が止まり、話し込む。Nさんにとって、ここ釜ヶ崎は第2の故郷だ。「むすび」の映像にもあったように、「場所」が記憶を呼び起こす。自分の人生をかけてやってきたことを伝えたい、知ってほしいという気持ちをひしひしと感じた。一宿一飯の恩義ということで、ブログで情報発信出来る環境を作ろうと思った。メールの送り方は知っていたので、メールで更新出来るブログシステムに登録した。それ以来、「おっちゃん通信」は毎日のように更新され、熱い言葉が綴られている。

twitterに流したら反響がよせられた。コメント機能を通じて、釜ヶ崎と全国と繋がる。「おっちゃん通信」を読んでいて気付いたのは、全国から様々な事情を抱えて、西成にやってきたおっちゃんたちは、人の痛みを分かっているからか、とても優しいということだ。ココルームに来て本当に良かった。

また、訪れたい街がひとつ増えた。

